

## 『命を輝かす』 東大和市立第五中学校 2年 大坂あみ

10月10日、この日は私にとって少し特別な日になりました。この日は道徳授業地区公開講座が学校で行われました。「命を考える教室」というテーマで、道徳の授業の後に、がん教育に関する講演を聞きました。松田陽子さん、というがんサバイバーの方のこれまでの生き方についての体験談を聞きました。

松田さんは、現在、シンガーソングライターとして活動する傍ら、国連 UNHCR 協会広報委員として世界の難民支援や児童虐待防止など、人の命を助ける活動を行っているとのこと。しかし、以前には子宮頸がんを患い、精神的にも追いつめられ、家庭も壊れ、自分自身も「うつ病」になってしまったそうです。松田さんは、ご自身のことを「メチャ、メチャな人生やった。」とおっしゃっていました。その時は、自分が生きていくことがつらくて、つらくて、もう死んでしまった方がどんなに楽だろうかと自分の命の灯火を消すことを、ずっと考えていたようです。そのどん底から松田さんは「自分は、どうやって這い上がったか。」ということ強く私たちに伝えてくれたと思っています。

松田さんの一人の友人が、自分を見捨てずに、「苦しむために生きているのでは、ない！」「あなたの命はあなたが思っているほど軽くない！」と声をかけ、気にかけてくれたことが、当時の自分を支えてくれたとのことでした。周りの人の優しさに気付くことにより、「私は苦しむために生きているのでは、ない！」「今の自分の環境に負けたら、あかん！」「心だけは、負けん！」との思いを胸に抱きながら、歯を食いしばって、苦しい治療にも耐え、生き抜いてきたとのこと。病気を克服してからは、「自分が支えられたように、自分の周りの人に温かさを伝えるために、自分は生きている。」とおっしゃっていました。私が、松田さんのお話の中で一番印象に残っているのは、「今の自分の宿命を、自分の運命に変える。」ということばです。「がん」という病気とたたかいながら、人のために尽くしている松田さんの姿は、とても輝いて私には見えました。

講演を聞いて、もし、私が松田さんと同じ立場だったらどうだろう、ということも考えました。きっと私だったら、松田さんと同じように「死にたい」と弱音を吐きながら毎日、涙にくれてしまうかもしれません。また、松田さんには、現在、中学3年生のお子さんがいらっしゃるようですが、私もその子のために「生きなくては」と強く思うだろうとも考えました。しかし、そのために手術を受けて治療するという恐怖にもおびえ、心穏やかに過ごすことはできないだろうとも思いました。きっと、今までに体験したことのない心の葛藤に襲われるだろうと、背筋が寒くなりました。

そして、「自分の命やこれからの生き方」について冷静に考えてみました。

人間は、いつ死ぬのか、病気になるのかは分かりません。だから、まず私は、今の健康な自分の体を大切に生きていきたいと思いました。自分一人で生きているのではないと常に考え、そして、自分の周りの人へありがたみ・感謝の気持ちをもって生きていきたいです。

また、たとえ、将来、自分が病気になったとしても、両親だったり、友人だったり、自分を必要、大切に思ってくれる人は必ずいます。だから、前向きに治療に専念して、自分の命を輝かせられるようになりたいです。

さらに、もし、身内や身近な人に病気になってしまった人がいたら、松田さんがおっしゃっていたように、明るく、少しでも心にぬくもりを与えられる、そんな人になりたいと考えています。

そのために、私は、少しでも心を広くもてるよう、今という時間を精一杯生きること、自分のできることは、しっかりとやることを心がけて、生活していきたいと考えています。